BUDŌ NEWS

今月のニュース

新生日本武道館を報道公開

増改修工事が完了した日本武道館本館と中道場棟（右）

昭和仕様が令和仕様に

新生日本武道館が誕生

粛然と増改修工事竣工式を挙行

竣工式

２０２０年の、２度目となる東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、２０１８年に始まった日本武道館の増改修工事がこのほど完了し、竣工式が７月29日、日本武道館・建築関係者合わせて約100名が参加して日本武道館大道場で実施された。

日本武道館は昭和39年（１９６４）、我が国の武道を国民、特に青少年に普及・奨励し、その精神を高揚するとともに、広く世界の平和と福祉に貢献することを目的として創建され、同年10月には東京オリンピックの柔道競技が開催された。以来、多くの武道家の憧れの舞台として、また、文化・音楽の聖地として広く国民に親しまれてきた。

本増改修工事は、２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の会場として備えるべき安全性、機能・快適性、バリアフリー性の向上を図ることを目的として実施された。

（178ページに報道機関への公開の様子を詳報）

挨　拶

◉高村 正彦
公益財団法人日本武道館 会長

日本武道館は1964年の東京オリンピックを契機に創建されました。今回の増改修工事は、創建の遺伝子を受け継ぐ山田守建築事務所と竹中工務店に設計・施工をお願いし、また、建物ライトアップ工事には石井幹子デザイン事務所に加わっていただきました。

新生日本武道館は、「武道の殿堂」「文化・音楽の聖地」として、国民の皆様に愛され、親しまれる施設として、また、武道振興事業の拠点として、今後も歩んでいきます。ご協力をいただきました関係各位に深く感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

修祓（しゅうばつ）、降神（こうしん）、献饌（けんせん）、祝詞奏上（のりとそうじょう）、四方祓い（しほうはら）、玉串奉奠（たまぐしほうてん）、撤饌（てっせん）、昇神（しょうしん）と、古式に則（のっと）って神事が執り行われた

日本武道館増改修工事竣工式

◉石井 幹子

株式会社石井幹子デザイン事務所
代表取締役社長

今回の建物ライトアップは四つのコンセプトに基づいています。それは、日本の武道精神を象徴するものとすること、東京を代表する光を演出すること、日本の光文化を継承し建築の美しさを照らし出すこと、日本から世界へ広がる光を目指すことです。また、古来から日本人が愛し、尊んできた月明かりが降り注ぐ霊峰富士をイメージしています。今回のライトアップは、多くの皆様方のお力添えにより実現できました。誠にありがとうございました。

◉宮原 浩輔

株式会社山田守事務所
代表取締役社長

今回の日本武道館増改修工事は、安全性の向上、快適性の向上、バリアフリー性の向上を図り、長きにわたって皆様に愛される施設となるよう、「再生と成長」というテーマを掲げて取り組んでまいりました。また、創建時の設計者・山田守のイメージの継承、そして、緑豊かな北の丸公園の環境との調和を図ることが我々の責務であると意識して設計いたしました。沢山の皆様のお力を拝借して本日を迎えられましたことに、改めて御礼申し上げます。

◉布村 幸彦

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会
副事務総長

昭和 39 年に行われた前回の東京オリンピック時に建てられた日本武道館を、来年行われる東京オリンピック・パラリンピックの会場として再び使用させていただくこととなっております。本館の全面改修工事並びに中道場の増築により、日本武道の聖地としての姿を新たにして来年のオリンピック・パラリンピック大会を迎えることとなりました。工事に携わった多くの関係者の皆様、そして日本武道館の皆様方に心より感謝申し上げます。

◉宮下 正裕

株式会社竹中工務店
代表取締役会長

創建時も山田守建築事務所様の設計の下、施工に携わらせていただきましたが、今回の増改修工事により、日本の建築史に残るレガシーとなるよう施工させていただきました。施工にあたりましては、2018 年 4 月の着工以来 28 カ月、延べ労働時間約 71 万時間をかけて工事が無事完了し、責任の一端を果たすことができたと考えております。これも関係者の皆様の温かいご指導・ご鞭撻の賜物であり、厚く御礼を申し上げます。

玉串奉奠

修　祓

御神酒拝戴

四方祓い

1 階席から取材する報道陣

増改修工事竣工式報道関係者説明会

竣工式終了後、臼井日出男日本武道館理事長、吉川英夫日本武道館理事・事務局長、宮原浩輔㈱山田守建築事務所代表取締役社長、石井幹子㈱石井幹子デザイン事務所代表取締役社長、宮下正裕㈱竹中工務店代表取締役会長が出席し、報道関係者説明会が行われた。説明会にはテレビ・ラジオ局、新聞、出版社等計37社、70名が訪れ、日本武道館増改修工事に対する関心の高さをうかがわせた。

施主挨拶

臼井 日出男
日本武道館理事長

「日本武道館は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における柔道・空手の会場に決定してから2年半を費やし、大道場の増改修工事と中道場棟の増築を行いました。武道の殿堂、文化・音楽の聖地として、これからも国民の皆様に愛されることを心より願っております」

吉川 英夫
日本武道館理事・事務局長

「東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定後、日本武道館は開催に向け全面協力する方針を固め、増改修工事に着手いたしました。工事の目的は三つあります。東京オリンピックにおける柔道・空手競技の成功、日本武道館建物・施設のレガシー化を図ること、共生社会にふさわしいバリアフリー化です。新生日本武道館を中道場とともに存分にご覧いただきたいと思います」

質疑応答

――今回の増改修工事で女性用トイレの数はどのくらい増えたのか。

「女性用トイレは約4割（中道場を含む）増加しました。また、男女の個室には切り替え方式を採用し、男女の比率が異なる催事内容に合わせた使用方法が可能となりました」

――換気、空調設備等はどのように変わったのか。

「新たにロビーに冷暖房装置を設置し、快適性の向上を図りました。また、アリーナ内は天井（擬宝珠の台座部分）から換気ができるようになっており、適切な空気調節が行われるようになっています」

――日本武道館でのライトアップは初めてのことか。

「一般催事でサーチライトを建物に当てたことはありますが、ライトアップは初めてとなります。また、今回のライトアップでは特殊なLEDを使用し、擬宝珠を金色に限りなく近い光で輝かせています。これは世界で初めて実現いたしました」

――擬宝珠は創建当時と同じものか。

「擬宝珠自体は変わっていません。今回の工事では、擬宝珠の表面の塗装を行いました」

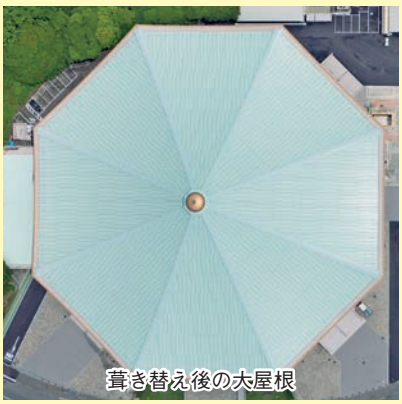
――外観に加え、建物内の照明も石井幹子事務所がデザインしたのか。

「大屋根を主とした建物外観のライトアップを石井幹子事務所が手がけております。なお、ライトアップにかかる電気代は1時間約100円となっており、省エネを心がけた設計となっています」

大屋根の葺き替え

日本武道館のシンボルとも言える八角形の大屋根は、半世紀の歳月を経て、銅板は落ち着いた色彩の緑青色へと変化しました。今回、伝統的な富士山の稜線・瓦棒・緑青色を踏襲しつつ機能向上を目的とした改修を実施し、８面全てを銅板からステンレスへ葺き替え、屋根荷重の軽減及び屋根の耐久性、防水性の向上を図りました。

大屋根の葺き替え作業（© 山田新治郎）

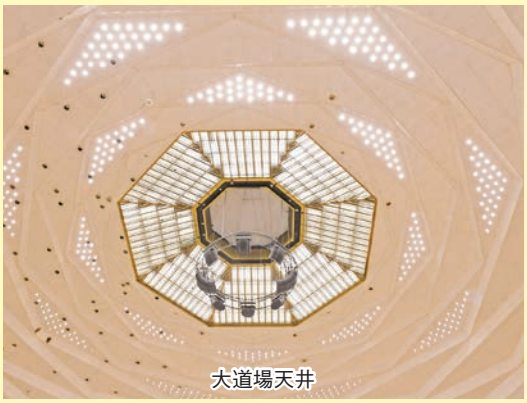


葺き替え後の大屋根

葺き替え作業が完了した大屋根

大道場の追加補強とＬＥＤ化

２００１（平成13）年の耐震工事実施後、十数年を経過しているため、今回、改めて現況調査を行い、耐震壁の追加補強を実施しました。大道場の天井部材についても追加補強し、安全確保を図りました。さらに将来に向けて、メンテナンス性の向上及び高輝度・演色性とフリッカレス（点滅によるちらつき防止）のため、全館の照明並びに競技用照明をＬＥＤ化し、二酸化炭素削減による地球温暖化防止に努めました。



大道場天井

入場口のバリアフリー化 1階に車椅子スペースを常設

本館1階東・西・南・北四つの玄関入口及び北西・南西の大階段前の石畳をフラット化しました。中道場西入口にはスロープを設け、車椅子利用者が安全かつスムーズに移動できるようにしました。事務棟玄関・中道場棟玄関までの視覚障がい者用点字ブロックや階段手摺（てすり）部分にも点字サインを設け、来館者が利用しやすい構造としました。

場内1階南東・南西・南の3辺に車椅子スペース（約30席。同伴者席付）を常設しました。前列の観客が立ち上がっても視線が遮られないような仕様で、バリアフリー機能の向上を図りました。

北側事務棟前の展示ブロック

フラット化した南西大階段前

1階車椅子スペース

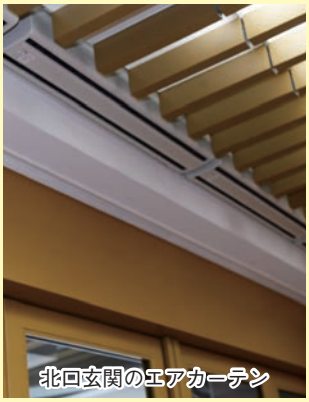
空調設備・トイレを含めた館内諸設備の大幅な改修

各階ロビー、控室、事務室等に空調機及びエアコンを設置しました。システム全体の監視と管理が可能な全体集中制御で運転を行い、館内の快適性向上を図りました。

催事の際、トイレの混雑解消を図るため、トイレを増設しました。一部のトイレは、男女の個室数を切替式としました。また、多機能トイレ（車椅子利用者対応）を増設、簡易多機能トイレを新たに設けました。

控室・会議室も改修改善を図り、快適に利用できるよう整備しました。

防災面も設備の更新及び避難導線の防火区画化により、来館者の安全を確保しました。


北口玄関のエアカーテン

多機能トイレ

特別室

400畳敷きの中道場

選手のウォーミングアップ場として活用

増築した中道場棟は、１９６４年に完成した本館の設計様式を踏襲しました。本館の南側に位置し、周囲の景観との調和や機能性・安全性などを考えた設計となっています。

地下２階にある中道場は、地下１階まで吹き抜けになっており、400畳の広さを有しています。床は檜の集成材、側面は厳選した杉の無垢板を使用し、赤味と白味を強調したデザインで、ウォーミングアップ場として使用する選手たちが快適に過ごせる環境となっています。１階には食堂、売店があり、利用者の利便性を図りました。

正面玄関（看板揮毫：新井光風氏）

ゆったりとした造りの多機能トイレ

催事の男女比によりトイレ個室数の切り替えが可能に

搬出入用エレベーター

明るく開放的な食堂スペース

増改修工事の経緯

公益財団法人日本武道館
理事・事務局顧問
（前常勤常任理事・事務局長）
三藤　芳生

日本武道館増改修工事竣工式に当たり、増改修工事の経緯をご報告申し上げます。

日本武道館は、今から56年前、前回の東京オリンピック競技大会開催を契機に、旧江戸城・北の丸公園内に創建されました。

それから約半世紀が経ち、2回目となる2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決まり、日本武道館は柔道、空手道競技の会場に内定いたしました。

1回目の大会においては、柔道競技の会場として国内外の注目を集め、熱戦の晴れ舞台となりました。1回目柔道競技は男子のみ4階級の実施でありましたが、今回の柔道競技は男女7階級に男女混合団体戦、加えて空手道組手・形競技に柔道パラリンピック競技と、規模内容が一気に拡大いたしました。

日本武道館の建物施設は56年前の仕様で、今回大会の成功には増改修工事がぜひとも必要である、との課題を役員会で審議、承認いただきました。

そこで、高村正彦会長、臼井日出男理事長に筆者が加わり、(1)東京オリンピック・パラリンピック柔道、空手競技の成功、(2)日本武道館建物、施設のレガシー化、(3)共生社会に相応しいバリアフリー化、の3つの目標を同時に達成することを方針に決め、準備に着手いたしました。

その後、スポーツ庁、日本スポーツ振興センター、東京都、東京五輪組織委員会等との連絡協議を着実に進め、役員諸先生方の協力も得て、工事費補助金や営業補償費に目途をつけ、全体計画が固まりました。

一方で、総務課、施設課が中心となり、財団50年の歴史と実績に立って、工事内容について検討に入りました。その結果、数百点に及ぶ課題が確認され、東京都や千代田区、環境省との事務交渉を進めました。財団事務局は全体で約50名の少数精鋭組織であり、年間稼動数約340日の他に、国内外で幅広く武道普及振興事業、書写書道普及振興事業を遂行しながらの諸準備にはいろいろな苦労がありました。

併せて、設計は山田守建築事務所、施工は（株）竹中工務店と前回建築当時の両社と決まり、東京都、五輪組織委員会、財団の五者で定期的に会議を実施し、柔道連盟、空手道連盟、DPI日本会議の八者で必要に応じた会議を重ねてまいりました。五者会議は41回、八者会議は11回に及んでいます。

中道場の増築に当たっては、建設予定地から江戸後期と明治期の埋蔵文化財が出土し、法令に基づく処理を着実に実施してまいりました。

今回の増改修工事は、本館大屋根、大天井の全面張り替え、建物施設の補強工事、照明の全LED化、男女トイレの増設等、建物、施設の全体に及んでおり、利用者の「安心・安全・快適」を高める内容となっています。同時に建物のライトアップ工事を石井幹子事務所の設計により実施いたしました。東京の夜空に輝く日本武道館の勇姿は、都民、国民に親しんでもらえるものと楽しみにしています。

以上のように、日本武道館は時代に相応しい歴史的建造物としてここに甦りました。昭和仕様が令和仕様に様変わりいたしました。

これもひとえに、高村正彦会長、臼井日出男理事長のご指導、ご鞭撻の賜物であり、事務局が一丸となって取り組んで来た成果であると喜んでいます。

終わりに、本増改修工事に多大なご支援、ご協力を賜りましたスポーツ庁、日本スポーツ振興センター、東京都、東京五輪組織委員会、（株）山田守建築事務所、（株）竹中工務店をはじめ、関係する多くの皆様方に心からの感謝を申し上げ、経緯報告といたします。

日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう　著

マンガ・武道のすすめ

（B5判・236頁）

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》

序章　武道のすすめ
松永光（日本武道館）／高村正彦（武道議員連盟）／有松育子（文部科学省）
第1章　いざ！　武道の世界へ
第2章　柔道のすすめ
大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人
第3章　剣道のすすめ
森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋
第4章　弓道のすすめ
森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝
第5章　相撲のすすめ
塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男
第6章　空手道のすすめ
金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士
第7章　合気道のすすめ
多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁
第8章　少林寺拳法のすすめ
合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也
第9章　なぎなたのすすめ
澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美
第10章　銃剣道のすすめ
桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之
第11章　古武道のすすめ
竹内藤十郎（柔術）／笹森建美（剣術）／加藤伊三男（槍術）／小笠原清忠（弓馬術）
日本武道館の歴史

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

今、なぜ武道か
―文化と伝統を問う―

福島大学教授
中村 民雄 著
（四六判・上製・370頁）

BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道
子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
（四六判・上製・410頁）

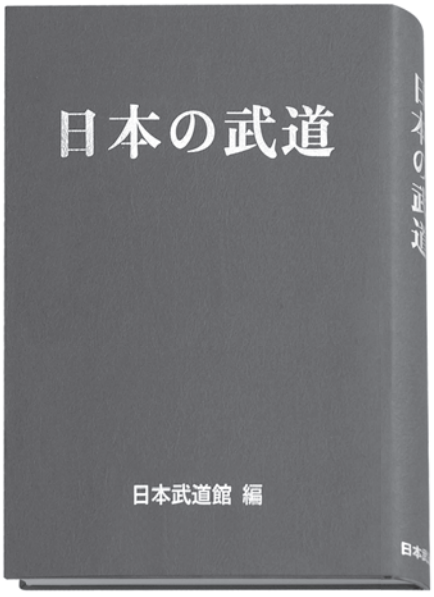
大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
（四六判・上製・376頁）

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本武道館 編



（B5判・上製・箱入・526頁）

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

マスコミ 37 社が来館取材

新生日本武道館を報道陣に初公開

増改修工事が完了した新生日本武道館（設計・山田守建築事務所、施工・竹中工務店）の報道機関への初公開が7月29日、竣工式に引き続いて行われた。報道各社は説明会に参加後、施設の各所に足を運び取材をしていた。

本館と中道場を結ぶ連絡通路

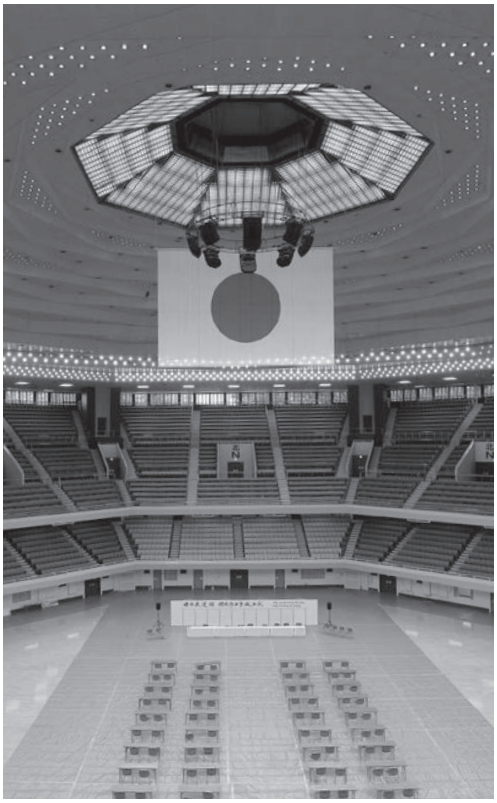
1階南西ロビー

本館増改修工事は、安全性、機能・快適性、バリアフリー性の向上を目的として、約1年全館休館して実施された。徹底した現況調査の下、大屋根の葺き替え、耐震壁の追加補強、防災設備の更新、避難導線の防火区画化、館内ロビーの冷暖房設置、すべての照明のＬＥＤ化、トイレの拡充、車椅子席スペースの確保、玄関出入口のフラット化、内装の更新等、多岐にわたって施設設備機能の向上が図られた。

中道場棟は、本館に隣接して増築された。試合前の練習場となる400畳の中道場を地下2階に設け、地下通路で直接本館と結ぶことにより大道場への円滑な移動が可能となった。また、本館のライトアップ機能も加えられ、夜間の景観向上が図られた。

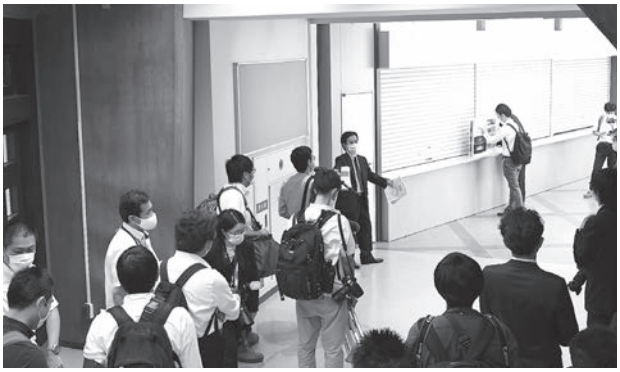
◇

※本増改修工事事業は、（独）日本スポーツ振興センター、東京都、（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会より助成を受け、実施いたしました。



LED 照明が施された大道場

1 階南口玄関

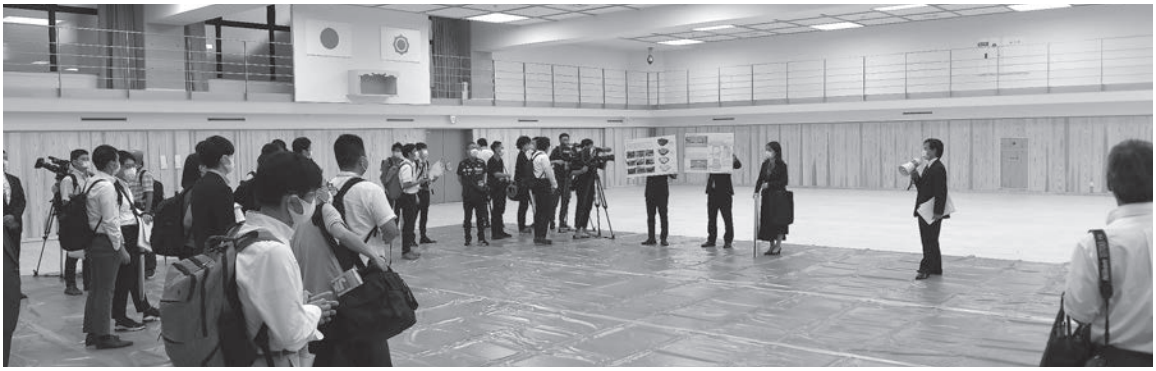


1 階西ロビー

説明にカメラを向ける報道陣

1 階車椅子席スペース

2・3 階観覧席



中道場

ライトアップされた本館（照明デザイン：石井幹子デザイン事務所）

中道場棟のホールスペース

■施設概要

▷所在地

東京都千代田区北の丸公園２番３号

▷建築概要

敷地面積：16,351.61㎡

建築面積：本館　8,422.62㎡

中道場棟　1,473.11㎡

延床面積：本館　19,042.99㎡

中道場棟　3,048.06㎡

構造・規模：本館　RC 造＋S 造、地下２階地上３階

中道場棟　SRC 造 +S 造、地下２階地上１階

▷施設概要

本館座席：１階席　3,199 席

２階席　3,574 席

３階席　4,272 席

アリーナ仮設席　2,946 席

立見席　480 席　　合計　14,471 席

中道場棟施設：１階　ホール、食堂、控室、トイレ

地下１階　事務室

地下２階　中道場、トイレ・更衣室

好評発売中

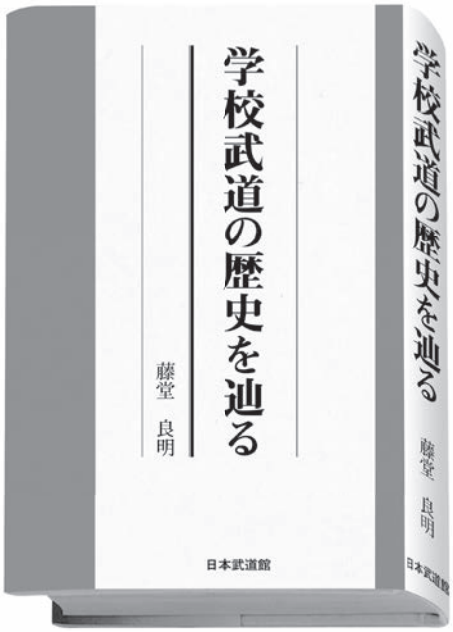
学校武道の歴史を辿る

藤堂良明（筑波大学名誉教授）著

四六判・上製・354頁・本体2400円＋税

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成20年には「中学校武道必修化」が実現した。

学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



著者略歴

藤堂良明（とうどう　よしあき）

1949年（昭和24）、埼玉県生まれ。東京教育大学体育学研究科修士課程修了。筑波大学教授（体育科学系）、同大学体育専門学群副学群長、同大学附属中学校長、全国国立大学附属学校連盟会長、日本教育大学協会副会長、日本武道学会理事、全日本柔道連盟教育普及委員会委員などを歴任。

現在、筑波大学名誉教授。博士（学術）。柔道七段。埼玉県柔道連盟副理事長。日本古武道協会常任理事。

目　次

第1部　江戸時代の学校武道
第1章　藩学の創設と文武学習
第2章　藩学における教育目標
第3章　藩学における武芸教育

第2部　明治時代の学校武道
第4章　武芸の衰退と学校教育制度の確立
第5章　学校武術採用に関する体操伝習所の答申
第6章　山岡鉄舟と嘉納治五郎
第7章　嘉納治五郎の学校柔道普及戦略
第8章　明治期の学校における武術の普及状況
第9章　武術の正課採用への歩み

第3部　大正時代の学校武道
第10章　文部省主催武術講習会の目的と内容
第11章　学校体操教授要目の制定と内容
第12章　「学校体操教授要目」制定後の体育界の動向
第13章　大日本武徳会の設立と影響
第14章　学生武道の隆盛
第15章　改正学校体操教授要目の制定と内容

第4部　昭和20年以前の学校武道
第16章　精力善用国民体育と学校武道
第17章　柔・剣道が正課必修に
第18章　戦前の学生武道大会の発展
第19章　国民学校体錬科の登場
第20章　第二次大戦中の体錬科武道

第5部　戦後の学校武道
第21章　戦後の学校武道の禁止と復活
第22章　「格技」の誕生
第23章　格技から武道へ
第24章　中学校武道必修化の実現
第25章　これからの学校武道のあり方

発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中

伝えたい日本のこころ

絵と文　中村　麻美（なかむらまみ）

Ｆ４判・上製・98頁・定価（本体２７００円＋税）

中村麻美（なかむら・まみ）画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室（田中峰雪氏に師事）にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、ＮＨＫＢＳニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説挿画を描いたＮＨＫ大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に〝天地人丸紋絵巻〟（兼続お船ミュージアム所蔵）、「斎王」（三重県立斎宮歴史博物館所蔵）など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」――こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。（本書「あとがき」より）

目　次

一　かしこい小僧さん
二　ひよどり越え
三　天の石屋戸
四　厳流島の決闘
五　太田道灌と少女の歌
六　三本の矢の教え
七　山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
八　良寛さまと筍
九　民を慈しむ仁徳天皇
十　中江藤樹―母への薬
十一　夫の危機を救う弟橘媛
十二　良子斎王―別れの御櫛
十三　桜井駅の別れ
十四　八俣の大蛇
十五　川中島の戦い―謙信と信玄
十六　紅梅内侍と鶯の宿
十七　新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
十八　小松姫―夫の居城を守りぬく
十九　青の洞門
二十　鍋島直茂と接ぎ木
二十一　小林虎三郎―米百俵の精神
二十二　島津義弘―関ヶ原敵中突破
二十三　光明皇后―千人のからだを洗う
二十四　城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
二十五　松坂の一夜
二十六　柳に飛びつく蛙
二十七　称名寺『青葉の楓』
二十八　神武天皇ご東征
二十九　本多忠朝とサンフランシスコ号
三十　つるべの朝顔
三十一　野中兼山―海に捨てたはまぐり
三十二　鉢の木
三十三　因幡の白うさぎ
三十四　堪忍のわび証文
三十五　橘曙覧『独楽吟』
三十六　南総里見八犬伝
三十七　吉田松陰の志
三十八　鳥居強右衛門の勇気
三十九　明智光春―誉れの湖水渡り
四十　赤穂義士の討ち入り
四十一　頼朝を助けた梶原景時
四十二　真田幸村―大坂の陣
四十三　天照大御神と美し国・伊勢
四十四　和田勇―祖国にオリンピックを招致
四十五　長岡花火『白菊』
あとがき

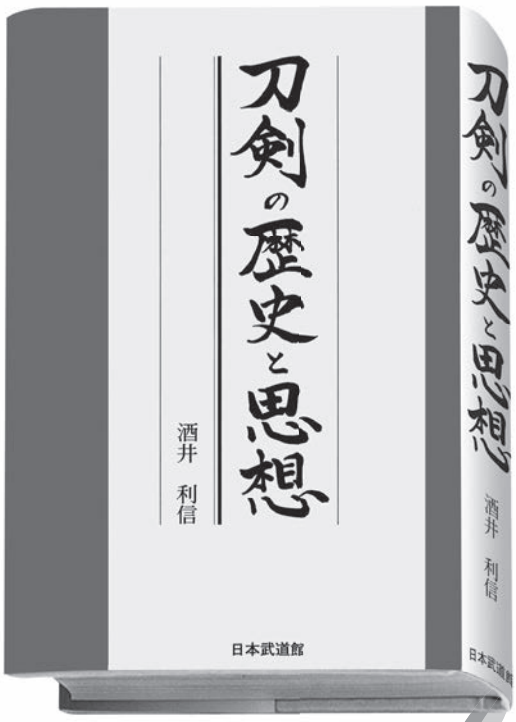
編集・発行　公益財団法人日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

刀剣の歴史と思想

筑波大学教授　酒井利信　著

四六判・上製・346頁・本体2400円＋税



刀剣を単なる武器としてではなく、神聖なものとして捉える思想とは何か―

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

題字揮毫―鹿島神宮　鹿島則良　宮司

目　次

序　章　探求の旅をはじめるにあたって
第一節　刀剣の歴史
第二章　刀剣思想の源流
第一節　古代中国の宝剣伝説　太阿の剣
第二節　干将莫耶の宝剣伝説
第三節　高祖の斬蛇剣
第四節　道教と剣
第五節　古代朝鮮の刀剣思想
第二章　神話的イメージの形成
第一節　神話的世界の形成と剣神の誕生
第二節　天より降る剣　師霊剣
第三節　天地を繋ぐ剣　草薙剣
第三章　信仰のなかの刀剣思想
第一節　祀る剣　祀られる剣
第二節　辟邪の呪剣
第三節　うけいの呪術と剣
第四節　修験道と剣
第四章　中世における刀剣思想
第一節　三種の神器の不思議
第二節　『平家物語』にみる三種の神器
第三節　『太平記』が語る草薙剣像
第五章　近世剣術における刀剣思想
第一節　剣術伝書に語られる日本神話
第二節　新当流にみる霊剣の技術
第三節　示現流にみる心の利剣
第四節　近世剣術における刀剣思想の展開
第六章　近現代における刀剣思想
第一節　近代以降の刀剣思想
第二節　古代と現代を繋ぐ刀剣
～鹿島神宮日本刀奉納鍛錬～
終　章　～稽古照今～

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

月刊 心技体 人を育てる総合誌
武道

月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。